

2019年10月7日

カナッタ
森田プランナー 様

宮田直春

今回の旅行の雑感を忘れなうちに下記します。
写真や各種パンフレット等の整理は ゆっくり行います。

1) 準備 :

①カメラ ;

- ・写真を撮るのが目的ではないので、愛用のデジカメ (Nikon COOLPIX A900) を持参しました。
機器の設定から、高品質・高画像を選択しました。
- ・過去の経験から、予備の電池を4個 (既にカメラに入っている物併せて5個) を用意しました。(以前 2泊3日の国内旅行で電池5個を使い果たしました)
- ・加えて、同電池の充電器を持参しました。(変圧器も持参しましたが、ホテルにUSBが使える設備があつて助かりました)
- ・略毎日 予備電池を少なくなったと気づいたら 早め早めに交換しましたので、余裕を持って撮影が出来ました。
- ・更に、SDカードは64メガの大容量を購入。(予備のSDカードも持参しましたが、使いませんでした。)
- ・フィルム時代と違ったので安心して何でもかんでも撮った結果、2000枚弱の記録が残っています。(整理するのに時間を要します)
- ・スマホの撮影でも良いかも知れませんが、電池使用が掛かるので デジカメを持っていくのが良いような気がしました。

②水分補給 ;

- ・現地の皆さんは、結構 マイボトル持参の方が多かったと感じました。
- ・現地デ買うペットボトルを持ち歩くと (日本のボトルと比べて) やや柔らかで不安なので、自宅から持参したペットボトルは 出国検査の直前で残っている水は 飲み干すかトイレなどで処分して「空」の状態での検査を受け 搭乗前にペットボトルに水分補給しました。
(カナダの空港では ペットボトルに水を入れる設備があり助かりました)

③紛失に備えて ;

- ・貴社の日程表、飛行機の予約票、ホテルの予約バウチャー、並びに荷物紛失対策としてスーツケースも デジカメで撮っておきました。【カメラを盗まれない限り大丈夫です】

2) 旅行

①トロント空港

- ・入国 貴案内にある「入国審査情報」と異なりました。
飛行機の中で、「税関申告書＝カナダ国境サービス庁申告カード」の配布がありました。同じ内容で 英文と仏文が表裏に記載がありました。そして、何と 日本語を初めとする13ヶ言語の翻訳リストが配布されました。
- ・入国審査 団体ならば兎も角 個人旅行者には、税関申告書記載の内容と略同じ内容の質問がありました。我々だけでなく、他の個人旅行者も同じことを言っていました。
- ・出迎え 「カナッタ」他のカードを持って出口に迎えて頂きました。
良く分かりました。
ガイドの方から、ナイアガラでの日程と宿泊ホテルや食事処記載の案内書の配布があって分かり易かったです。

②エンバシー・スイーツ・ホテル

- ・9月25日朝食 6時半の開場前に朝食会場前に行きましたが、既に10数組が並んでいました。係員の指示で順番に入場となるので、早めの行動が必要と思いました。
- ・9月26日朝食 サスカトゥーンへの移動日であったので ロビー出発が6時40分で、ホテルで朝食を取ることは無理で空港で食べようかと考えていた処ナイアガラ観光ツアー会社から連絡があって 各人CD15ドル(2人計30ドル)の現金返還がありました。

③ナイアガラ観光

- ・ガイドのジャスミンさんが、小まめカメラのシャッターを押して頂いたので良い記念となりました。
- ・又、彼女からカナダの文化等の紹介もあって、カナダに関する興味が増していきました。午後のワイナリー見学も、彼女がまるでワイナリーの人の様に施設やワインの説明を行って、すごい者と感心しました。
- ・買い物「北極」立ち寄り。やはり日本語が通じると安心です。

④ミルククーポン

- ・税金・チップ込とあったこともあり、Remingtons で食事しました。
が、最後に【何分暗くて文字は鮮明では無かったのですが】「サービス料 0」と書かれたような紙をテーブルに持って来ましたが、「NO THANKS」と返すと 何も言っでは来ませんでした。

⑤サスカトゥーン

- ・空港から市内までは、20ドル+チップ3ドルでタクシーに乗れました。安心。

- ・ホテルフロントの推薦紹介で、昼食・夕食は 娘夫婦と共に堪能しました。
- ・27日は、婿の授業が無かったので、動物園・西部開拓博物館と大学を案内してくれました。
動物園では、バイソンに落ちていた木を食べさせることが出来ました。
可愛い目をしていました。(当初、バイソンの料理を味わおうと考えていましたが、幸か不幸か バンプでは専門料理店が予約取れませんでした)

⑥カルガリー

- ・出迎え 飛行機到着時に他の空港からの便もなかったこともあって、幸いに我々2人だけが日本人であったのか 迎えの佐藤さんが直ぐに迎えてくれました。
そのまま、色々な案内を聞きながら バンプに向かいました。

⑦バンフ

- ・夜分に雪が舞っていて、29日朝は 地面が雪で真っ白でした。
事前に娘から 今年の冬は第1次の寒波くるかもしれないとの情報を得ており冬の服装も持参していましたが、予想以上に寒く 家内は サスカトーンで長めの下着購入するなど寒さ対策を講じました
- ・29日の観光は、女の子を連れた夫婦と 我々の二組で観光しました。
ガイドの桜井さんは、カメラのシャッターを小まめに押して戴いて本当に良い思い出となっています。
大氷原到着時には、幸いに 雪上車数は少なく 十分に氷原を楽しめました。
バンフから途中の高速道路で、遠くに山ヤギ・グルズリーを見つけたので 安全な場所に車を止めてもらったので しっかり見る事が出来ました。
- ・30日も夜分から小雪が舞って、早朝の道路はうっすらと雪化粧をしてました。
気温は マイナス2度。外を歩いてみましたが、歩道を 自走式のブラシ搭載の小型ロータリー除雪車で 清掃していました。面白い機械を見ました。
- ・30日観光では、最初訪れる予定の湖が曇って良い景色が見れないとのガイド佐藤さんの判断でコース変更。お蔭で エメラルド湖・タカカウ滝をしっかりと見ることが出来、スパイラルトンネルでも丁度列車が通過しカラフルな長い貨車も見ました。
午後になって晴れてきた モレーンレイクをみて レイクルイーズへと向い、景色を楽しみました。
- ・観光中の食事：
29日・30日と各人おにぎり2個(同じ具はありませんでした)に暖かい麦茶。
みかんと トップツアー社長夫人特製のケーキ。良かったです。

⑧レイクルイーズ

- ・10月1日早朝の気温は、マイナス10度でした。持って行った物を重ね着しての対応でした。それでも寒かったです。

・乗馬：案内書では 30分前集合とあったので少し前に乗り場に到着しましたが、案内所は閉まったままでした。家内を残して ホテル・コンシェルジュに問合せにホテルに戻って聞いた処「8時45分が変わった」との返事。

案内所に戻って 8時45分になっても 関係者誰も来ず。再度 ホテルに戻りコンシェルジュに問い合わせると、乗馬事務所に電話して「馬のトラブルで遅くなった」と。案内所に戻ると、受付が始まっていました。参加者は 家内と二人だけでした。

乗馬コースは、登山道と少し異なるコースでした。前日からの寒波の影響でコースは 表面は凍っていて一步踏みいれると泥水の悪路から始まり山道を登っていきましました。路は凍っており雪をかぶった道の側の木々を歩んだり楽しめました。

(ネタバレ：TOP»海外旅行»カナダ旅行»レイク・ルーズで想定外の乗馬体験！乗馬初心者が馬に乗って山を登る！そして登り切ったその先にあったものとは？ #アルバータ秋旅 #カナダ)を見てください。まさにその通りで我々の場合は加えて 雪景色でした)

ミラーレイクは、凍っていたのでパスし、更に上に進みました。

少し進んで下馬、少し歩いて TEAHOUSE に。暖かいココアを飲み、傍のレイク・アグネスの景色を楽しみました。

一般の登山客も多く、ほとんどの方が凍った登山道に苦戦している様でした。

(前日 ホテルのスポーツ店で 簡易アイゼンが売っている理由が分かりました) 帰りは、坂道を鞍に掴まりふんぞり返って下山しました。一般の登山者も多くなり我々(先ずは 先頭の先住民と思えるガイドさん)にカメラを向けシャッターを押していました。

(調整出来るかも知れませんが、ある程度の足の長さが無いと 鐙に足が届かない可能性があります)

・カヌー

湖の上から見るホテルの全貌は 素敵なものでした。

(1時間で湖の端まで漕ぐのは 漕ぎ手の力が合っていないと大変です)

漕ぎだす前に注意事項の紙を見せられますが、ちゃんと日本語バージョンもありました。

3) 雑感

①トイレ

・バンフの街の案内図には、公共トイレ(=Washroom)の記載がありました。

・観光中の野外トイレは、水洗でなく 半個室で 高さ60cm弱の縦長のバケツをひっくり返して置いた便器があり、上部に 小き目の便座がありました。

背の低い方には 便器の上に座るのは大変ではないかと思いました。

紙は 備え付けられており、その他の紙の使用はダメとの表示が有りました。

手洗い用の水は無く、アルコール消毒の設備がありました。

②支払

・兎も角 クレジット・カードの発達した国と思いました。老若男女がカードで決済していました。

チップはクレジット決済出来ます。利用支払金額を確認し「チップもカード」と云うと、携帯式決済器具に（私が決済した限り）「4段階のチップ支払の割合

「%」を表示した画面の提示があり 支払人がその内の一つの項目を入力し カード暗証番号を入力し承認すると、細かい煩雑なチップ計算の必要無く支払うことが出来ました。

以上

PS 渡航前にカナダドル購入しましたが、カルガリー空港でお菓子を買った結果 帰国時点で 25セント硬貨1枚だけが手元に残りました。